

〔到達目標 修士課程・博士課程の教育内容・方法〕

博士前期課程・博士後期課程の教育内容・方法等に関する到達目標としては、第1に、博士号取得促進に対する社会的要望の増大等を背景に、取得プロセスのより一層のシステム化や積極的督励等による課程博士取得者の恒常的増加を図ることがあげられる。第2に、講義内容の充実や授業評価実施等による教育課程の透明性増大や教育効果改善があげられる。

〔到達目標 学生の受け入れ〕

学生の受け入れに関する到達目標としては、博士前期課程では、第1に、カリキュラムの内容に高度専門職業人の養成を重要な柱として位置づけ、教育方針に適した内容に再編成する。そのため、昼夜開講制を採用している。第2に、社会人や留学生等さまざまな学生を受け入れることにより、学生の流動性を高め、教育研究を活性化させる。そのため、入試制度について、内部進学制度をより一層充実させるとともに、社会人入試などのさまざまな入試制度を導入している。第3に、入学者選抜基準を、入学後の研究主題と専門性の評価にも重点をおいたものとしている。

博士後期課程については、博士の学位に関して、今後も現行の授与方針・基準によって公正・厳格に行うこと、及び博士学位取得者数の現在の状況を維持することを目標としている。

〔到達目標 教員組織〕

教員組織に関する到達目標としては、第1に、研究科専任教員の採用等も含む経営学の各学問領域での進歩・発展や細分化に対応した担当者増を図ることがあげられる。第2に、今後研究科全体でのプロジェクト推進や学生に対するきめ細かい指導を行うために教育補助員（Teaching Assistant）、リサーチアシスタント（Research Assistant）制度の導入等による研究支援職員の充実があげられる。

〔到達目標 研究活動と研究環境〕

（この項目は、経営学部と経営学研究科の状況を併せて記述することとする。）

研究活動と研究環境に関する到達目標としては、第1に、経営学の教育や研究に特化した環境を整備するために、経営学研究科専用の施設・設備（講義室、演習室、図書・資料室）等を確保することがあげられる。第2に、経営学のグローバル化に対応するため、グローバル・ビジネス研究所と連携した教員・院生の研究活動への積極的助成があげられる。